

■採択年度（タイプ・申請区分）※該当の口を■にしてください。／大学名

【ASEAN 対象】H23（A-Ⅱ）H24（Ⅰ）H24（Ⅱ）【AIMS】H25／

京都大学

■プログラム名

「開かれた ASEAN+6」による日本再発見—SEND を核とした国際連携人材育成

—以下、マレーシア・インドネシア・フィリピンに特化した内容を主に記載ください。—

■相手大学・機関（国名も記載ください）

ハサヌディン大学（インドネシア）・フィリピン大学（フィリピン）・プトラマレーシア大学（マレーシア）・インドネシア大学（インドネシア）・ガジャマダ大学（インドネシア）

■主な活動内容（概要）

平成 25 年 2 月 フィリピン大学に院生 3 名派遣（共同指導）、平成 25 年 8 月 ハサヌディン大学に院生 5 名派遣（専門）、平成 25 年 9 月 ガジャマダ大学に院生 6 名派遣（専門）、平成 25 年 12 月 インドネシア大学に院生 1 名派遣（専門）、経済学研究科とガジャマダ大経済経営学部との部局間協定締結 平成 26 年 1 月 フィリピン大学に学部生 6 名派遣（専門、SEND）、プトラマレーシア大学から院生 1 名受入（共同指導）、平成 26 年 2 月 フィリピン大学から院生 1 名受入（共同指導）、平成 26 年 3 月 インドネシア大学に学部生 5 名派遣（異文化・語学研修）

■プログラムの現状・課題、成功事例

（単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等について、できるだけ具体的に記載ください）

現状・課題

本事業により、学部生まで受講可能なインドネシア語授業・インドネシア語現地研修を新規に開始し、今後も継続実施の予定である。経済学分野では、ガジャマダ大学とのあいだで、活発な大学院教育交流が進行しつつある。

フィリピンに関しては、京都大学で人の移動について受講した学生が、フィリピン大学の協力を得つつ、政府機関である在外フィリピン人委員会の要請に応じて①フィリピン人母子の日本渡航前研修への協力、②京都市内の小中学校で学ぶフィリピン人児童への学習支援活動を行うというインターンシップ型の教育実践に取り組んでいる。その他、上記の活動内容に示したとおりの大学院生の相互指導がすすめられている。

成功事例

経済学分野での大学院教育交流は、京都大学・ガジャマダ大学にタマサート大学（タイ）を加えた三大学（ないしそれ以上）による、単位の相互認定を含む実質的な連携となっており、将来はさらに多くの大学を加えた同学位へと発展する可能性を含むものである。その足掛かりとして、本プログラムを通じた各連携大学との交流実績を踏まえ、平成 26 年 9 月に京都大学、ガジャマダ大学、タマサート大学、チュラロンコーン大学（タイ）四大学の大学院生と教員による「東南アジアの持続的発展」に関する国際交流カンファレンスをタマサート大学で開催することになっている。